

<試験官に関して>

外国人試験官 (NS) : 40代のオーストラリア人女性。穏やかで優しい感じだが、一部英語が速く聞き取れにくい箇所もあった。

通訳ガイド (TG) : 50代の日本人女性。始終笑顔で親しみやすい感じだった。自分の名前をゆっくりと紹介してくれた。

<面接試験の実際>

TG	(ドアを開けて) どうぞ。
I	(一礼をして入室した。)
NS	Good morning.
I	Good morning.
NS	Please put your bag and coat on the chair.
I	Which chair should I put my belongings?(空いた椅子が2つ並べてあったので)
NS	Either will do. Please have a seat.
I	Thank you. (椅子に腰掛ける)
NS	Did you take a long time?
I	Not so much. It took about one hour. (実際は1時間20分位かかったのだが、スムーズに来れたのでというっかり短めに答えてしまった。)
NS	How did you come here?
I	I came here by train and on foot.
NS	May I have your name, please?
I	My name is.....
NS	Where did you live?
I	I live in city in Hyogo prefecture.
NS	So do you know Kokoe in?
I	Sorry, I haven't heard that name. (実は自宅に帰ってからその名を思い出した。それは、先月オープンしたショッピングモールだ ということ。少し上がっていたのと Kokoe の発音が聞き取りにくかったので、その時はピーンとこなかったのである。)
NS	All right. I'd like to ask you some questions? How big is Japan?
I	It's about three hundred and seventy thousand square kilometers. (後で調べてみると現在は、造成などを行い約38万平方キロメートルというべきだったかもしれない。)
TG	(途中特に話さないが、盛んに評価のためのメモを取っているのが分かる。)
NS	What country is as large as Japan?
I	(とっさに、同サイズの国が思いつかなかった) I hear that England is about two-thirds of Japan.
NS	Do you mean including Scotland,?

I	Sorry, I mean United Kingdom, including Northern Ireland.
NS	All right. I'd like to see Sumo match. Where can I see it?
I	Sumo league match is held now and today is the last day. It is held in Tokyo. (実際は九州場所というべきだったが、この1週間新聞やテレビも見てこなかったのだから思い込みをしてしまった。やはり、忙しくても少しは目を通すゆとりを持つべきだったと反省した。)
NS	It's quite far. Then I can't go there soon. I wonder which show should I see, Kabuki, Noh or Bunraku?
I	I recommend you should see Kabuki first, because Kabuki is much more understandable and entertaining for beginners than Noh or Bunraku.
NS	I see.
TG	(時間がきたという意味合いのことをNSにささやく。)
NS	Thank you, nice taking with you.
I	Is that all? (意外に時間的に短く感じたので。)
NS	Yes, time flies! Have a nice day.
I	Both of you, too. Thank you very much. (最後にドアの前で一礼して退出)

<反省点、今後の課題、後輩へのアドバイス等>

昨年よりも面接官との距離が近かったように感じた。また、去年は男性二人で、しかもネイティブの早口がやや聞き取りづらかったのに対し、今回は、女性二人で、しかもお二人とも極めてソフトタッチな話し方をされていて親しみやすく思った。また、今年は多くの設問をぎりぎりまで復唱続けてきたので、ある程度自信もついできており、昨年よりはかなり落ち着いた気持ちで臨めた。たまたまか、いざ私の番においては心配していたような難問は出ず、また時間的にも短くあっけなく終わったように感じたので、**Is that all?** などと聞き返したくらいだった。もしかしたら、遅れ気味だったことで、試験官側でも焦っていたのか、それとも寒い中でやや待たせたことなどを気にしていたのかなと思ったりしたが、でも時間は公正に守ったはずで、ただオーバーをしなかったということだろう。いずれにしろそうした分、私にとっては、何かしら偶然にも運がついていたように感じた。後は幸運の女神がどうか微笑みますようにと願うばかりである。